

第 130 期生卒業式

奨励

The Lord be with you

駿河城公園の梅も満開となり、メジロが気ぜわしく飛び回り梅の香りを運んでいます。

本日、ここに英和女学院 130 期生 82 名が百花繚乱のごとく咲き誇りました。卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

お母様、お父様、ご家族の皆様、お嬢様のご卒業を心よりお慶び申し上げます。これまでの長きに渡る皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

本日の卒業式には石井博文理事長、中井弘和学院長、柴田敏大学学長始め学校関係者には感染予防のため出席を控えて頂きましたが、お祝いと励ましの言葉が寄せられています。卒業生皆さんと共に感謝申し上げたいと思います。

私が校長として着任した 2019 年の春、皆さんは高校 1 年生でした。長く男子校にいた私にとって、いきなり夜桜乱舞、体育祭、文化祭で舞い踊る皆さんはとても眩しく華やかでした。ま

たメープルコンサートには卒業生の皆さんも大勢お集まりいただき、先輩から後輩へとつながる英和の伝統を感じました。そしていよいよ英和女学院の中心となる高校 2 年生を迎える頃、新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり始めました。一斉臨時休校から始まり、感染対策と予防を学校とご家庭が一丸となって皆さんの安全で健康な生活をめざしました。オンライン授業が始まり、2020 年度はひと月遅れの入学式となり、その後も時差通学、短縮授業など次々と自粛、延期、中止となりました。しかし生徒会を中心に皆さんの社会福祉協議会、市立病院などへの医療衛生用品の寄付、応援メッセージは私たち自身の励みとなり、英和の誇りとなりました。

黄色の皆さんは、高校 1 年生の頃より学年主任の先生から自己主張の強い学年だと言われていました。実は今も言われています。私は実はそんな黄色の皆さんに密かに期待していました。自主性と主体性を求めていけば、摩擦が起きるのが人と人との関係性です。

英和学では授業の後「先生、立教にいたんですね。立教ってジャニーズの誰くんいますよね」と、なんとというフレンドリーで物怖じしない英和生だと思いました。またある黄色さんは「校長先生、わたし英和祭でお化け屋敷したいんです。お願いします」と直談判に来ました。部活動で友だちとぶつかっ

る様子も知っていました。試験前、放課後、神出鬼没で友だちと試験勉強している姿も微笑ましかったです。

そして高校 3 年生となり将来へ向けて進路を定め、受験勉強が始まりました。悩んでいる人、結果がでない人、ご家族と意見が合わなかった人もいたでしょう。でも体育祭ではよく踊って、歌って、笑って、転んで、泣いていました。最高のパフォーマンス、ドラマでした。

そしていよいよ入試が近づき、多くの入試制度がある中で自分の適性、能力、志願先をよく考え、皆さんは積極的に挑戦し続けています。でもその挑戦はまだ始まったばかりです。ここから冒頭の聖書の言葉にあったように、あなたの「地の塩」「世の光」のミッションが始まります。

「あなたがたは地の塩である」

「あなたがたは世の光である」

人間は塩分が欠如するとめまいやけいれんを起こし、命にかかわることもあります。塩はなくてはならないものです。また光がなければこの世は闇のままです。「地の塩」「世の光」とは、あなたがたはこの地上で生かされ、この世にとってなくてはならない尊い存在だということです。

そして主イエスは「(そう) なりなさい」とは言っています

ん。「である」と言い切っています。あなたが自身にその意識や自覚がなくても、主イエスはわたしの言葉を聞いたあなたがたは「地の塩」「世の光」であると言い切っているのです。なぜでしょうか。それは主イエスが「わたしはいつまでもあなたがと共にいる」と約束されているからなのです。主イエスが共にいるから、わたしたちは「地の塩」「世の光」なのです。

あなたが地の塩として他者を生かし、世の光として闇を照らす時、あなたはひとりではない、わたしもあなたと共にいると主イエスは言われているのです。

たとえどんなに孤独な人のように見える人でも、他者を愛している人は孤独ではありません。主イエスと共にいるのです。主イエスが共にいるから、人は他者を愛し、互いに愛し合うことができるのです。いつまでも主イエスが共におられますようにと祈っています。

May the Lord be with you always.

2022年3月1日

静岡英和女学院高等学校

校長 大橋 邦一